

東富士五湖道路 富士吉田忍野スマート IC の開通

山梨県 富士吉田市 都市基盤部 都市政策課

◆はじめに

富士吉田市は、山梨県の南東部、富士山の北麓に位置する総面積 121.74km² の高原都市であり、富士北麓地域の中核的位置を占め、自動車専用道路、国県道などが交わる広域交通の要衝に位置しています。

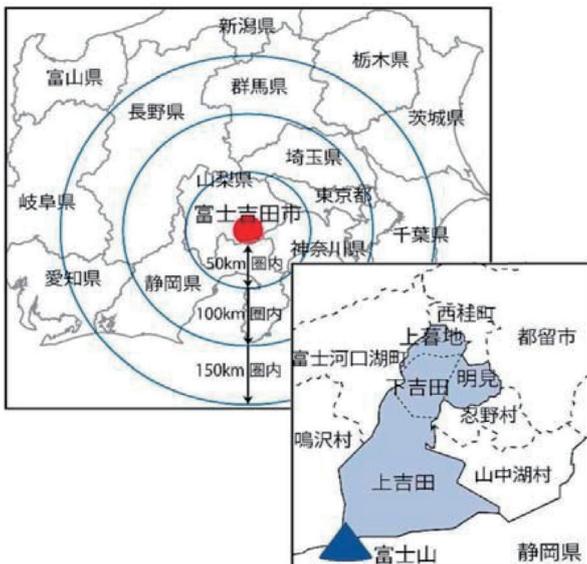
市街地は概ね標高 650m ~ 850m に展開しており、南に富士山をのぞみ、その中腹から流出する水が集まって桂川となり、北の都留市、大月市方面へ流れています。市の南側は富士の裾野をなし、陸上自衛隊の北富士演習場が大きな面積を占めています。

本地域は、甲州街道の支道、旧鎌倉往還の宿場町であるとともに、富士登山の吉田口として、古くから富士山信仰の町として栄えました。平成 25 年に富士山が世界文化遺産に認定され、富士登山をはじめ世界中から多くの観光客が訪れており、観光都市としても注目されています。

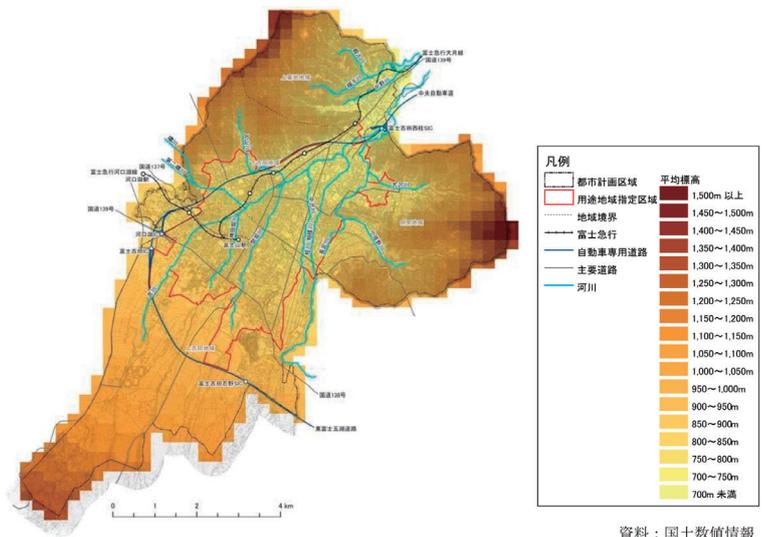
明治以降は近代産業として織物業が集積し、最盛期には生地を織れば織るほど飛ぶように売れる「ガチャマン」時代と呼ばれ、「ガチャッとひと織りすれば1万円儲かる」といわれるほどでした。その後安価な輸入品の流入をはじめとした時代の流れもあり、織物産業も衰退していましたが、近年、織物に絡めたイベントの開催や地場産業のブランド化などの取り組みにより、販路の拡大や観光資源の発掘など織物を活用した地域振興も積極的におこなわれており、かつての活気や認知度が戻りつつあります。

このたび、令和 4 年 7 月 24 日に開通しました富士吉田忍野スマート IC は、「道の駅富士吉田」や「ふじさんミュージアム」などの地域活性化エリアが立地する市城南東部に位置し、富士吉田市の新たな玄関口として整備されました。

本稿では、富士吉田忍野スマート IC の施設概要や期待される整備効果などをご紹介します。



富士吉田市の位置

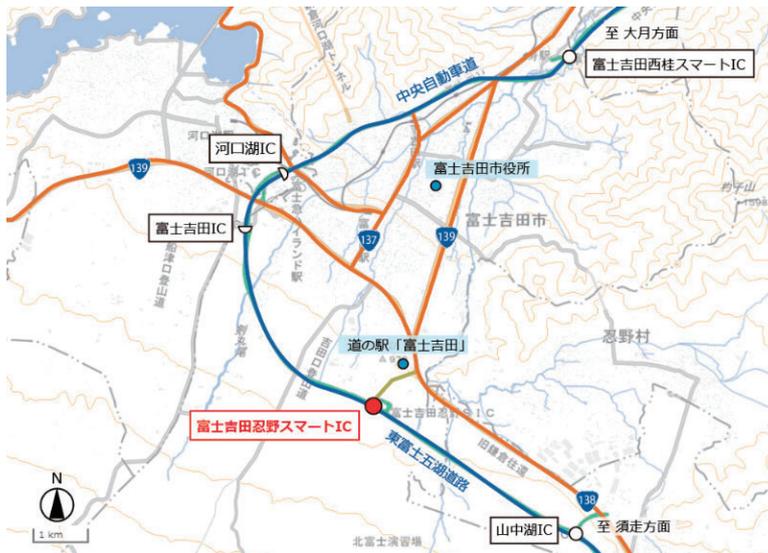


富士吉田市の地形

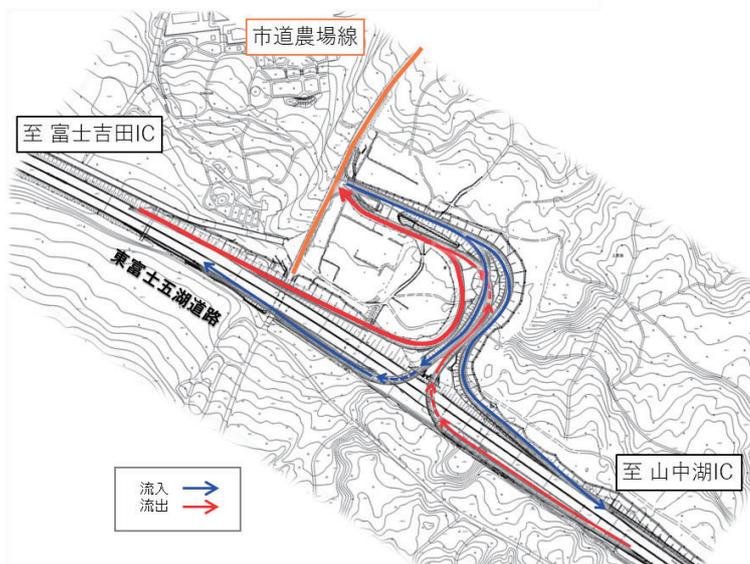
資料：国土数値情報

◆富士吉田忍野スマートICの概要

- 事業年度：平成28年度～令和4年度
- 設置場所：東富士五湖道路
山梨県富士吉田市上吉田 市道農場線
- 接続形式：本線直結型
- 利用時間：24時間利用可能
- 出入方向：全方向利用可能（静岡方面、東京方面）
- 対象車種：ETCを搭載した全車種
（軽自動車等、普通車、中型車、大型車、特大車。通行可能対象車長L = 16.5m以下）
- 事業経緯：
平成28年5月：地区協議会設立（第1回（仮称）富士吉田南スマートIC地区協議会）、実施計画書策定
平成28年6月：国土交通省より東富士五湖道路と市道農場線との連結許可
平成30年10月：第2回（仮称）富士吉田南スマートIC地区協議会、工事着手
令和3年3月：「富士吉田忍野スマートインターチェンジ」名称決定
令和4年7月：供用開始



スマートIC位置図



スマートIC配置図

◆周辺整備について

スマートICの整備に合わせ、当該地周辺一帯の整備を実施しました。主な整備の内容としまして、スマートICから接続する国道138号までの区間には、「道の駅富士吉田」や「ふじさんミュージアム」などの集客施設も立地していることから、既存の市道の付け替えや拡幅整備を実施し、利用者がアクセスしやすい導線となるよう整備しました。



スマートIC ランプ全景



スマートIC と富士山

◆開通式典の開催

令和4年7月24日（日）関係者約80名のご列席のもと、式典会場のふじさんミュージアムパーク駐車場において開通式典が執り行われました。



開通式典、テープカットの様子

◆期待される整備効果

(1) 交通円滑化

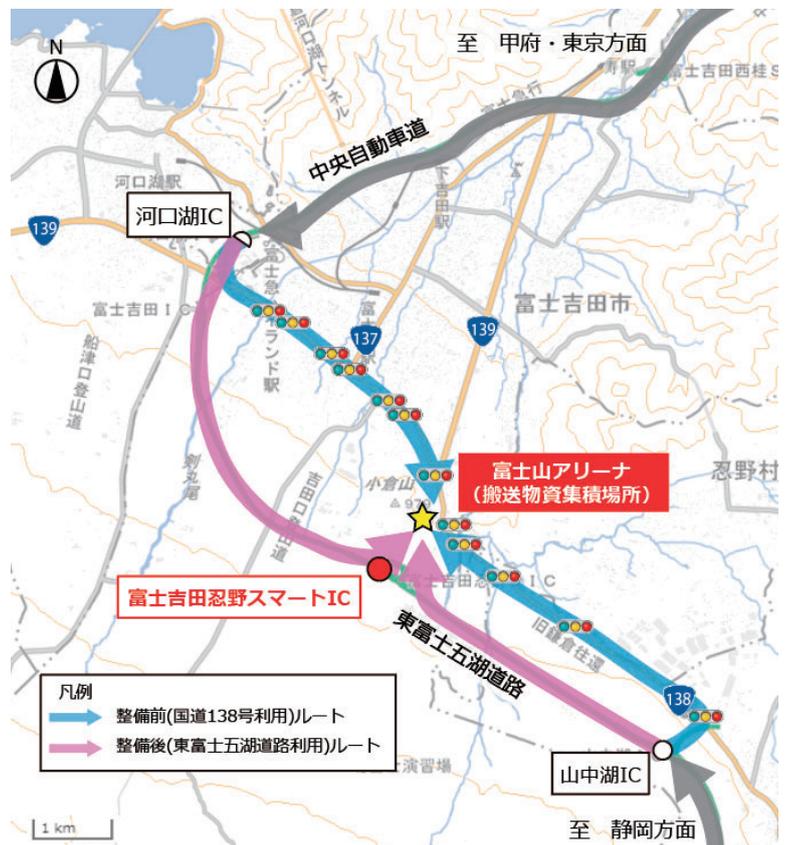
スマート IC の開通により、交通分散が図られ、国道 138 号の交通量が 1,100 台以上減少する見込みとなっております。また、スマート IC の利用により、東富士五湖道路へのアクセス性が向上され渋滞回避による所要時間短縮が期待されております。



交通分散イメージ図

(2) 災害対策

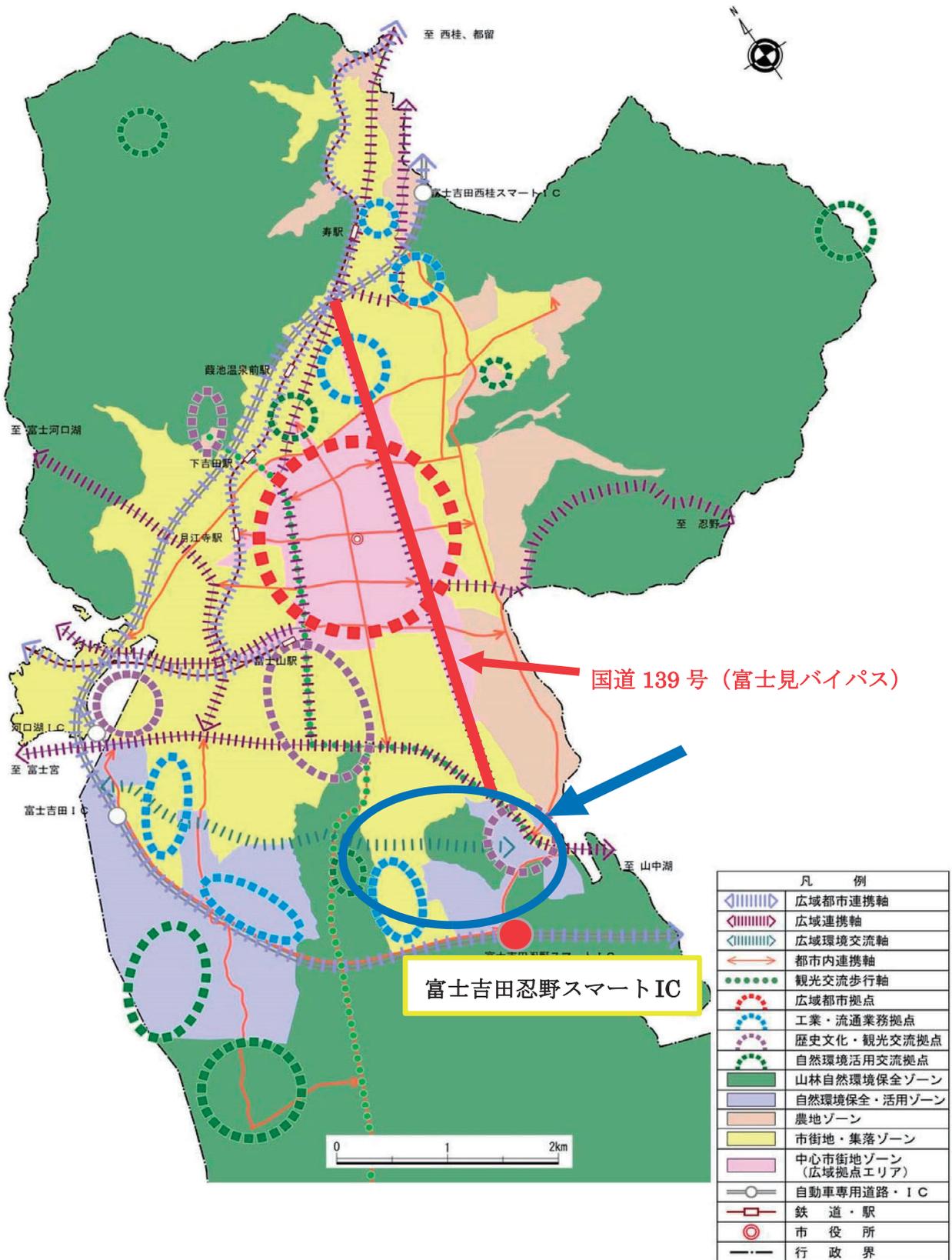
本市は、災害時において環富士山地域で相互応援に関する諸協定を締結しており、有事の際には県内市町村、静岡県各市町村との相互援助を想定しております。東富士五湖道路は、広域避難路・第一次緊急輸送道路に指定されており、スマート IC の整備によって静岡県との連携が強化され、有事の際の静岡県への救急搬送においては、より迅速な搬送が可能となります。また、応援協力要請計画の搬送物資集積場所（富士山アリーナ）へのアクセス性向上により、甲府・東京方面及び静岡方面からの支援にかかる所要時間が短縮します。



所要時間短縮イメージ図

(3) 企業誘致

東富士五湖道路へのアクセス性向上や周辺地域の交通円滑化により、今後、本市において更なる企業誘致が期待されます。特に、国道139号（富士見バイパス）沿線や本スマートICの北側の地域との接続性も向上されることから、新規企業の進出につきましても、より一層見込まれます。



富士吉田市将来都市構造図

(4) 観光振興

本市域には、年間入込み客数が100万人を超える観光施設が複数立地しており、スマートIC整備によってより広域からの観光客誘致が期待されます。また、移動時間が短縮されることにより、滞在時間や滞在個所数の増加が見込まれ、観光振興に寄与します。



◆今後の展望

富士吉田市南東部の玄関口となる、スマートIC周辺については、観光や歴史文化の交流拠点として位置づけており、「道の駅富士吉田」のリニューアルや、「市立富士山ジビエセンター」の建設を予定しているなど、今後につきましてもスマートICの整備効果をより一層発揮できるよう、努めてまいります。

◆おわりに

皆さまのご理解とご協力のもと富士吉田忍野スマートICは開通を迎えることができました。

今後も多くの方々にご利用いただけるよう関係機関等と連携し、本スマートICの利活用を推進することにより、富士北麓地域の産業や観光振興につなげ、周辺地域を含めたさらなる発展を目指していきます。